

## 令和7年度イノベーション人材等育成・確保支援事業の実施状況について

## 1 事業目的

高度な技術・技能や経営感覚を持ったプロフェッショナル人材などイノベーションを生み出す多彩な人材の育成と集積等を推進し、企業の新分野への展開や地域産業の活性化等を図る。

## 2 取組状況

## (1) プロフェッショナル人材マッチング支援事業

## ① 事業内容

「広島県プロフェッショナル人材戦略拠点」を運営し、地域金融機関等と連携した県内の受入企業の掘り起しや、民間人材紹介会社等と連携した大都市圏等の人材の掘り起しを行うとともに、人材受入コストの支援（※）を行う。

※ プロフェッショナル人材を採用する場合：人材紹介手数料の1/2、上限200万円

副業・兼業人材を活用する場合：業務委託料の17.5%（初回活用は80%）、上限50万円

## ② 令和7年度の実施状況

・令和7年度目標：プロフェッショナル人材の正規雇用人数190人 ⇒ 実績399人

・中長期の目標：R3～R7年度累計900人 ⇒ 実績R3～R7年度累積1,784人

## 【参考：成約状況】

区分	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計
正規雇用	41	131	154	162	176	283	333	327	336	389	399	2,731
副業・兼業	-	-	-	-	-	-	33	52	64	40	113	302
合計	41	131	154	162	176	283	366	379	400	429	512	3,033

※副業・兼業はR3年度から実施

## 【参考：正規雇用における人材タイプ別内訳】

人材タイプ	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計
経営者を支える右腕として企業マネジメントに携わる人材（将来の経営幹部候補も含む）	6 (14.6%)	32 (24.4%)	24 (15.6%)	22 (13.6%)	13 (7.4%)	16 (5.7%)	20 (6.0%)	19 (5.8%)	21 (6.3%)	16 (4.1%)	17 (4.3%)	206 (7.5%)
新規事業や海外現地事業の立ち上げなど、企業にとって新たな事業分野や販路を開拓し、売上増加等の効果を生み出す人材	10 (24.4%)	16 (12.2%)	36 (23.4%)	29 (17.9%)	19 (10.8%)	90 (31.8%)	102 (30.6%)	128 (39.1%)	141 (42.0%)	126 (32.4%)	78 (19.5%)	775 (28.4%)
開発や生産等の現場で新たな価値（新たな製品開発、生産工程の見直し等）を生み出すことのできる人材	17 (41.5%)	44 (33.6%)	48 (31.2%)	52 (32.1%)	34 (19.3%)	92 (32.5%)	110 (33.0%)	90 (27.5%)	76 (22.6%)	84 (21.6%)	123 (30.8%)	770 (28.2%)
その他、豊富な実務経験があり、企業の潜在的可能性を更に引き出し、成長に導くことのできる人材	8 (19.5%)	39 (29.8%)	46 (29.9%)	59 (36.4%)	110 (62.5%)	85 (30.0%)	101 (30.3%)	90 (27.5%)	98 (29.2%)	163 (41.9%)	181 (45.4%)	980 (35.9%)
合計	41	131	154	162	176	283	333	327	336	389	399	2,731

## ③ 課題

新事業展開等企業の成長には、デジタル人材等のプロフェッショナル人材の採用・活用が不可欠との認識に至りながら、コストへの負担感からプロフェッショナル人材の採用・活用に抵抗感のある経営者も依然として多い。

④ 令和8年度の実施方針

デジタル化等の産業構造の変化に対応するため、大都市圏を中心に増加している副業・兼業を含む多様なプロフェッショナル人材の採用・活用を支援することにより、地域への人材還流と県内中小企業への「攻めの経営」への転換を促していく。

(2) イノベーション人材等育成事業

イノベーションの原動力となる高度で多彩な産業人材の育成を促進するため、県内中小・中堅企業が、社員を研修等へ派遣する費用や、個人の専門職大学院の課程等での修学に要する費用の一部を支援する。

① 事業内容

- 企業向け補助金（イノベーション人材等育成事業補助金）  
 新たな事業展開、競争力強化につながると見込まれる社員の国内外研修に派遣する費用等の支援  
 ・長期研修：補助対象経費の2/3～3/4以内、その他研修：補助対象経費の1/2～2/3以内
- 個人向け貸付金（広島県未来チャレンジ資金）  
 広島県の産業発展に不可欠なイノベーションの創出に寄与すると認められる専門職大学院の課程等での修学に要する費用の支援  
 ・課程修了後、8年間県内企業等に就業した場合は全額返還免除

② 令和7年度の実施状況

- ・令和7年度目標：高度で多彩な産業人材の育成45人 ⇒ 実績33人
- ・中長期の目標：R3～R7年度累計225人 ⇒ 実績R3～R7年度209人

区 分	採択件数
企業向け補助金（イノベーション人材等育成事業補助金）	22人
個人向け貸付金（広島県未来チャレンジ資金）	11人
合 計	33人

【参考：これまでの採択状況】

- 企業向け補助金（イノベーション人材等育成事業補助金）（H23～R7年度）

業 種	採択人数	年度別採択人数														
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7
製造業	173	18	8	11	14	13	14	11	9	9	4	6	15	17	16	8
建設業	42	—	3	2	2	4	3	3	4	3	2	1	2	7	2	4
学術研究、専門・技術サービス業	75	1	1	1	2	2	6	4	5	10	10	8	8	6	6	4
卸売業、小売業	37	—	1	2	3	2	2	3	3	2	2	1	11	3	1	1
情報通信業	14	1	1	—	—	—	1	2	2	1	—	—	0	0	2	4
上記以外	35	—	4	1	—	—	1	2	4	3	4	2	1	9	4	1
合 計	376	20	18	17	21	21	27	25	27	28	22	18	37	42	31	22

- 個人向け貸付金（広島県未来チャレンジ資金）（H24～R7年度）

ア 採択人数（修学分野別）

修学分野	採択人数	年度別採択人数														
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
MBA・マネジメント	88	3	4	6	5	13	9	12	3	—	8	4	9	8	4	
MOT(技術経営)	25	3	4	3	1	2	4	1	3	—	1	0	1	0	2	
工学系	27	—	3	2	5	2	2	4	2	1	2	2	1	1	0	
情報系・その他	34	—	3	2	7	3	1	—	1	—	4	3	4	1	5	
合 計	173	6	14	13	18	20	16	17	9	1	15	9	14	10	11	

イ 修学・就業状況

	採択 人数	貸付中（内定含む）			貸付満了			
		在籍中	休学	入学予定	就業	留年	就活等	返還済※
人 数	173	24	1	7	98	0	6	37
割 合	—	18.5%			56.6%	24.9%		

※退学等により返還が必要となった者

③ 課題

県内企業において、産業DX・イノベーション人材等の育成をはじめとした人的資本経営がより一層推進されるよう、強力に支援していく必要がある。

④ 令和8年度の実施方針

企業向け補助金及び個人向け貸付金をリスキリングに特化した新たな補助金制度に統合する。

(3) 広島県ものづくりグローバル人材育成事業

① 事業内容

産学官が連携して、アジアをはじめとする優秀な理工系留学生を受け入れ、ものづくり企業のノウハウを活かしたカリキュラムによる人材育成を実施する。

実施主体	県内企業、広島大学、広島県で協議会を構成
受入対象	アジアをはじめとする理工系留学生
受入大学	広島大学大学院先進理工系科学研究課（修士）
受入期間	2年間（毎年10月入学）
事業内容	○ 各国大学における優秀な留学生の掘り起こし ○ 受入留学生への奨学金支給 10万円/月 ○ 日本型ものづくり及び日本型企业経営を理解するための教育プログラムの実施 ○ 上記教育プログラムへの各種協力（インターンシップ受入、講師派遣等）
会 費	企業負担金：30万円/社・年度 ※ 受入留学生を採用した場合、別途特別負担金50万円/人を納入

② 令和7年度の実施状況

- ・令和7年度目標：優秀な留学生の県内企業就職 6人 ⇒ 実績2人
- ・中長期の目標：R3～R7年度累計30人 ⇒ 実績R3～R7年度累計26人

【参考：これまでの実績】

受入年度	出身国	就職年度	就職者数	累計
H23	インド・タイ・ベトナム各1	H25	2名	2名
H24	インド・中国各1、タイ2	H26	3名	5名
H25	インド2、タイ3	H27	5名	10名
H26	インド3、タイ・インドネシア各1	H28	5名	15名
H27	タイ2、インドネシア・インド・中国各1	H29	4名	19名
H28	インドネシア・インド各2、 タイ・メキシコ各1	H30	6名	25名
H29	インド2、 インドネシア・ベトナム・タイ・中国各1	R元	5名	30名
H30	タイ2、インド・インドネシア・メキシコ・ 台湾・中国各1	R2	7名	37名
R元	タイ3、メキシコ・ベトナム・インド各1	R3	6名	43名
R2	インド3、タイ2、メキシコ・コロンビア各1	R4	6名	49名
R3	インド4、メキシコ・中国各1	R5	6名	55名
R4	インド3、インドネシア1、ベトナム1、中国1	R6	6名	61名
R5	インド1、中国1	R7	2名	63名
R6	ベトナム3、中国2			

③ 課題

生成AI等デジタル技術が急激に進展する中で、産業DXを推進するための情報系人材など新たな人材ニーズの高まりに応じた事業の再構築を実施する。本事業については、令和7年度以降の新規受入れ中止する。

④ 令和8年度の実施方針

令和6年度入学生5名の修了に伴い、協議会の解散を行う。また、会員企業に対しては、グローバル人材育成・確保支援事業への参画を呼び掛ける。

(4) ひろしまDX人材育成奨学金

① 事業内容

産業DXを牽引する人材を育成するため、県内高等教育機関の理工系情報学部等で学ぶ学生に修学資金を貸与する。

② 令和7年度の実施状況

・令和6年度目標：奨学金を借り受けて卒業した者における県内就職率 70%

⇒ 実績 68.2% (県内就業 15人/卒業 22人) ※令和7年9月1日時点

【参考：これまでの採択状況】

○ 修学・就業状況

	採択人数	貸付中	中止・辞退等	貸付満了			
				県内就職	返還	留年・就活等	進学
人数	293	254	3	26	1	9	0
割合	—	86.7%	1.1%	8.9%	0.3%	3.0%	0.0%

・令和7年度目標：学生向け貸付決定数 100人 ⇒ 実績 100人

○ 採択人数

年度	R5	R6	R7
人数	100人	93人	100人

③ 課題

人材の県外流出防止及び県内企業等への定着を促進するため、一層の制度周知の強化を図る必要がある。

④ 令和8年度の実施方針

高等教育機関入学前の早期段階から学生に制度を認知してもらうため、オープンキャンパス等で制度説明等を実施するとともに、SNSやWEB等を活用し広く制度の周知に取り組む。

また、学生の県内就職・定着に向け、情報系学生の採用を望む県内企業(情報通信業に限らない)を知る機会を提供することで、県内就職への意識をより高める。

(5) ひろしまAI部

① 事業内容

産学官が連携し、高校生を対象に、AIを理解し、活用する力を身に着ける教育プログラムを提供する。

② 令和7年度の実施状況

○ AIチャレンジ(企業訪問)

成果発表会に向け、企業訪問等を通じて、実社会でのAIの活用可能性の探求に取り組んだ。

開催日	【テーマ】 訪問先	内容
令和7年 7月29日(火)	【AI×食】 オタフク ホールディングス(株)	機械学習による需要予測の実態等を学ぶとともに、AIを活用して広島のスoulフード OKONOMIYAKI を海外に広めるアイデアを考える！
令和7年 8月7日(木)	【AI×セキュリティ】 (株)熊平製作所	セキュリティ製品業界シェア No.1 のリーディングカンパニーで画像解析 AI 活用等の実態を学ぶとともに、「AI 技術を用いた新たなセキュリティシステム」のアイデアを考える！

令和7年 8月20日(水)	【AI×モビリティ】 マツダ(株)	マツダが取り組む AI を活用した車づくりなどを学ぶとともに、日常の困りごとから AI 活用アイデアを考える！
令和7年 8月23日(土)	【AI×半導体】 マイクロンメモリ ジャパン(株)	半導体メモリ製造工場内の装置情報を可視化する「生産一元管理システム」等を学び、日常生活や他分野への AI 展開アイデアを考える！

○ HIROSHIMA AI PITCH (令和8年3月25日(水) 成果発表会)

1年間の活動の集大成として、AIを活用して社会課題等を解決するプロダクトを競うイベントを開催した。

(i) 参加者数：266名(会場176名、オンライン90名)

(ii) 出場校：9校(エントリー29校)

(iii) 表彰

ア 最優秀賞：広島県立祇園北高等学校

「スポーツを上達させるには?才能?体格?いやいやAIです。」

(動画の画像解析による野球のスイングスピード向上)

イ 部門賞

・ベストプレゼン賞：広島県立上下高等学校

「プレトレ」(音声解析を利用した発表の評価によるプレゼンテーション力向上)

・ベストプロダクト賞：広島工業大学高等学校

「Pick×Picture」(写真加工や演出、UVプリンター用のデータ変換の自動化によりグッズ制作を支援)

・高校生ベスト共感賞：広島県立五日市高等学校

「AITeacher」(問題の解答だけではなくヒントや解法など欲しい情報を生成して、家庭学習を支援)

○ 成果目標

プログラム参加者のうちAIなどテクノロジーを活用して課題解決することができるスキルの基礎を身に付けた生徒の割合：70.0%(実績87.2%)

【活動指標】

AI基礎教育プログラム参画学校数：25校(実績40校)

③ 課題

生成AIの出現に代表されるデジタル技術の進展に伴い、企業等ではAIなどのテクノロジーを活用できる人材育成・確保が引き続き急務となっている。

④ 令和8年度の実施方針

参加校の拡大を図りながら活動を継続し、広島の未来を切り拓く人材の育成に取り組む。